

製品名: MRLC2 (リン酸化 Ser18) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05039**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	18kDa

抗原情報

遺伝子名	MYL9
別名	MYL9; MLC2; MRLC1; MYRL2; Myosin regulatory light polypeptide 9; 20 kDa myosin light chain; LC20; MLC-2C; Myosin RLC; Myosin regulatory light chain 2; smooth muscle isoform; Myosin regulatory light chain 9; Myosin regulatory light chain MRL
遺伝子 ID	10398/10627
SwissProt ID	P24844
免疫原	抗血清は、ヒトミオシン調節軽鎖 2 の Ser18 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 3-52

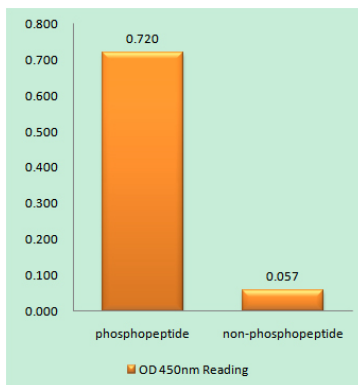
背景

筋肉の構成成分であるミオシンは、2つの重鎖と4つの軽鎖からなる。この遺伝子によってコードされるタンパク質はミオシン軽鎖であり、ミオシン頭部のATPase活性を調節することで筋収縮を制御すると考えられる。コードされるタンパク質はカルシウムと結合し、ミオシン軽鎖キナーゼによって活性化される。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能:ミオシン調節サブユニットで、リン酸化を介して平滑筋と非筋細胞の収縮活性の制御に重要な役割を果たす。細胞質分裂、受容体キャッピング、細胞運動に関与する。、その他:この鎖はカルシウムと結合する。、PTM:リン酸化はアクチン活性化ミオシン ATPase 活性を増加させ、それによって収縮活性を制御する。これは細胞の移動の駆動力を生成するために必要ですが、ミオシン 2 を先端に局在させるためには必要ありません。、類似性:3つの EF ハンドドメインを含みます。、サブユニット:ミオシンは、2つの重鎖と4つの軽鎖の六量体です。、組織特異性:平滑筋組織および一部の非筋細胞（すべてではありません）

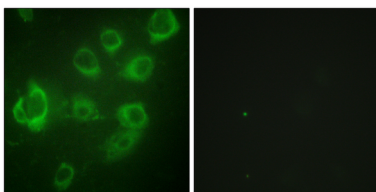
研究分野

血管平滑筋の収縮、接着斑、タイトジャンクション、白血球の内皮透過移動、アクチンと細胞骨格の調節。

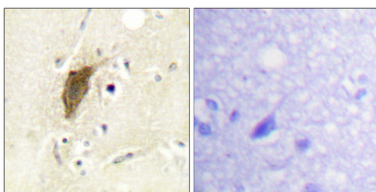
画像データ



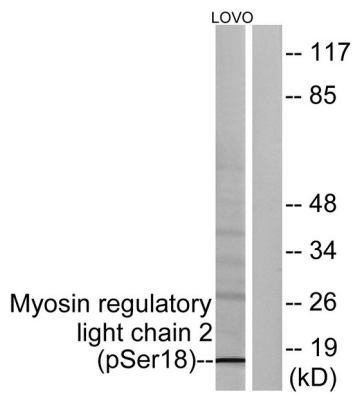
ミオシン調節軽鎖 2 (リン酸化 Ser18) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



ミオシン調節軽鎖 2 (リン酸化 Ser18) 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



ミオシン調節軽鎖 2 (リン酸化 Ser18) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



LOVO 細胞ライセートを H₂O₂ 100 μ M 30 分処理し、ミオシン調節軽鎖 2 (リン酸化 Ser18) 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。